



岡崎市民病院 だより

第5号

平成17年1月11日発行



救急医療について

院長 石井 正大

救急医療は医の原点であると言われる。いつ病気や怪我をしても受診できる医療機関があることは、安心して住むことのできるための一つの条件であります。現在、岡崎の救急医療体制としては、医師会による夜間急病診療所、休日緊急当直制、そして、二次救急医療として、4病院による輪番制の体制があります。市民病院は三次救急病院として毎日24時間対応しております。しかしながら、現状では市民の皆さんの十分な満足は得られていないようです。

救急医療についての問題点はいくつかありますが、そのうち最も大きなものは、労働力の不足であります。時間外救急医療に従事する人の多くは、昼も働き、翌日も休めないのが普通なのです。そういった状態であっても救急医療をなくすわけにはいかないということで、いわば救急医療がボランティア的発想で行われているところに大きな問題があると言えます。診療報酬を含めた制度の改革が望まれるところです。

最近、小児科の救急医療については小児科の専門医に診察して欲しいという要望が高まっています。岡崎市においても、昨年6月より、医師会と県下の3大学の協力によって、夜間急病診療所で、小児科専門医による診察が始まりましたが、これを今後も維持することは、かなり大変なことと推察されます。当院の小児科は、新生児の救急医療施設(NICU)の運営があり、又、当市内には小児病棟を有する施設が他にないため、小児の入院患者さんをすべて受け入れており、現状ではこれ以上の体制は組めない状態

にあります。

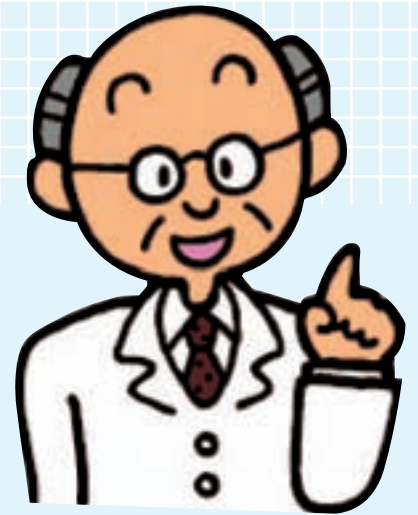
救急外来では、小児科のみでなく、全ての患者さんが専門医に診てもらいたいという要望があります。しかし、そのためには膨大な数の当直医を置かねばならず、不可能なことです。当院で毎日当直医のいる科は小児科(NICU)の他では、循環器科のみで、これは急性の心筋梗塞に対して、カテーテルを用いた治療を分秒を争って行い、救命率を上げるため、他の科では、必要に応じて呼び出される在宅体制をとっています。

このような現状の中で、当院が救急医療のレベルアップを目指して現在行っているのは、救急医の養成であります。救急医とは、全ての科の初期医療を心得ており、重症か否かを鋭く見抜き、更に初期の救命処置もできる医師で、いわば、初期救急医療のスペシャリストであります。そして必要に応じて各科専門医に引き継ぐまでが役割になります。救急医を必要とする声は全国で徐々に高まりつつありますが、教育する施設は少なく、自ら養成するより他にないのが現状です。当院はこの4月より、救命センター長の指導のもとに、精鋭の若手医師により、救命救急科を設立し、救急外来にて救急医として診療を行っています。

市民病院は、救命救急センターを有する病院として、救急医療を行うことは重要な役割と認識しております。地域の救急医療の砦として今後も充実に努めるつもりであります。市民の皆さんが、救急医療の現状と当院の方針について御理解いただけると有難く思います。

「QOL」

ってなに？



QOLとはクオリティ・オブ・ライフ (quality of life) の略語で、「生命の質」とか「生活の質」などと訳されます。医療の場では、患者さんの「生命・生活の質」を問題にして、その向上を図ろうという考え方を言います。たとえば、治癒が困難になった癌の治療の場合に、単に延命を図るのではなく、QOLを高く保つという視点が重視されるようになりました。患者さんの権利運動の中から1960年代後半に主に米国を中心に発展してきた考え方です。

ところで、「生命の質」が高い、とはどんな状態を呼ぶのでしょうか。まず、身体の苦痛がない、あるいは少ない状態が考えられますが、人間の生活には、身体的な面以外に、精神的・心理的・社会的・文化的側面などがありますから、これらの質を総合して考えなくてはならないことになります。さらに、どの側面を重視するかということは画一的に考えることは出来ません。個人個人はそれぞれの人生観・価値観を持っていますから、その人のQOLに対する考え方も異なってくるのが考えられるわけです。

一方、「生命の質」を第三者が評価することには注意が必要です。QOLという言葉はいろいろな分野で問題になりうる考え方です。脳死やいわゆる植物状態、安楽死の問題、歴史的には優生思想の問題にまで関わってきます。しかし、生命の価値を他人が判断することはしてはいけないことです。QOLとは、あくまで、生のあり方同士で比べる考え方であり、また、生命の質の向上を目的とすべき考え方なのです。



心をこめてクリスマスソングを



光ヶ丘女子高等学校 合唱部顧問 白鳥 清子

早いもので、岡崎市民病院でクリスマス・キャロルを歌わせていただきまして、4回目を迎えました。毎年貴重な機会を与えてくださり、生徒ともども大変感謝しております。私達にできることは、誠心誠意心をこめて美しい歌声をお届けすること、早く良くなってくださいと願いを込めて歌うことだけです。プロの方のように上手くはありませんが、生徒達は一生懸命力を尽くして歌わせていただいております。そして最後の全員合唱のときには、大きな口をあげ、力のかぎり私達と一緒に歌ってくださる方々の姿に感動して、涙がとまらなくなるのは私だけではありません。そして早くお元気になってください、ご家族の方々にも早く平安が訪れますようにと願わずにはおられません。

以前、院長先生より「美しい音楽を聴き心安らかな気持ちになると、痛みのある方もその間は痛みが和らぐ」とお聞きしました。また、クリスマス・キャロルの後、お礼状をいただくことがあります。あるお手紙には

「生徒の皆さんの真摯な姿をみて感動し、毎日を前向きに考え、頑張ろうと勇気が湧いてきました」と書かれていました。私達の歌声が、少しでも皆様のお心に届きますことは大きな幸せですし、音楽の偉大さに感動せずにはいられません。

生徒たちにとって、生命の尊さ、健康の大切さ、音楽の素晴らしさを深く感じる貴重な経験ができますことはかけがえのないことです。これからの人生の中で、生命を慈しみ心優しい人となり活躍してくれることと思います。

最後になりましたが、ボランティア・サポート委員の皆様には事前の打ち合わせ、チラシの準備、当日朝早からの準備など多くのご尽力をいただいております。また、先生方、看護師の方、「もやいの会」の方のお力添えのおかげで、みなさまに演奏を聴いていただくことができます。多くの方のお心が集まってクリスマス・キャロルが開催できますことに心より感謝しております。

診療放射線技師の仕事

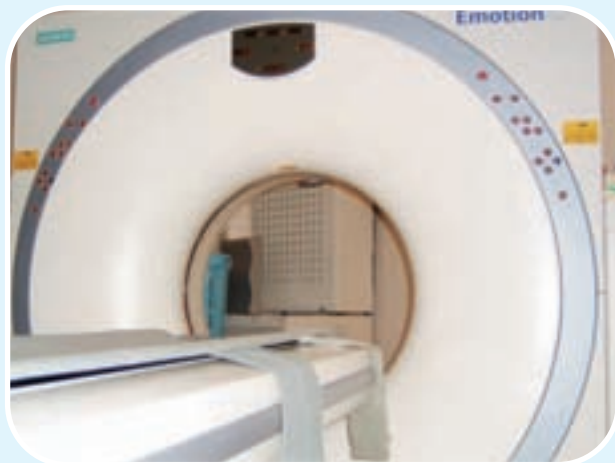


『診療放射線技師』と聞いて一般的なイメージとしてはレントゲン検査が浮かぶと思います。「息を吸って止めて下さい。」という合図のもとで写真を撮った方もたくさんいるのではないのでしょうか？我々診療放射線技師はレントゲン検査の他にも様々な検査を通して体内の情報を提供しています。今回は機器や検査の一部を簡単にご紹介します。また11月に乳房X線装置を更新しましたので後に乳房撮影についてもご紹介します。



一般撮影

いわゆるエックス線（レントゲン）検査で、主に肺や骨などの状態を見る検査です。他に乳房撮影、骨塩定量、歯の全体写真も行なっています。



CT（コンピューター断層装置）

エックス線とコンピューターを利用して身体の断面（輪切り）像を見る事ができます。現在では装置の進歩により画像処理をおこなう事で任意断面像が見る事が出来ます。



MRI (磁気共鳴画像)

X線は使わず、磁石と電波を使い身体のあらゆる断面撮像することができます。CTではわかりにくい急性期の脳梗塞等の発見に威力を発揮します。

TV (透視)

胃透視や大腸バリウム検査、内視鏡を使った特殊な検査などを行ないます。簡単な造影検査などもここで行ないます。



RI (アイトープ)

ごく微量の放射線を出すアイトープ（放射性医薬品）を体内に投与して検査を行ないます。アイトープは、診断したい臓器に集まり、そこから出てくる放射線の分布をガンマカメラという装置で捕らえて画像にしています。

血管造影撮影

造影剤を血管内に注入し病変を観察します。また、心臓の血管が詰まった場合には血管を特殊な風船で膨らまして血管を広げたり、クモ膜下出血による動脈瘤の破裂部位に特殊な素材のコイルを入れたりして治療を行なっています。



放射線室の役割は、体内の状態を画像にして医師に提供する事です。体内からの情報を見逃す事なく明確な画像にし、医師に提供するという事は、病気の早期発見や的確な治療につながると考えています。

医療技術局 放射線室 室長 宇佐見 義隆



ピンクリボン
は乳がんの早期発見、早期診断、
早期治療の大切さを伝えるシンボルマークです。

乳房X線撮影装置を更新しました

岡崎市民病院では、平成16年11月に乳房X線撮影装置を更新し、デジタルを利用した最新鋭の撮影装置を導入しました。

乳房X線撮影とはエックス線を使って乳房の写真を撮影する事で、マンモグラフィと呼ばれています。乳がんは女性のがん死亡原因のトップになっており、日本人女性の約30人に1人が生涯の間に乳がんにかかると言われていています。しかし、ごく早期に発見し治療すれば95%以上が治ります。決して怖い病気ではありませんので定期的に検査を受けることが大切になります。

マンモグラフィは視触診ではわからない乳がん初期の小さな病変やしこりを持たない腫瘍病変を見つける事ができ、早期発見、早期診断、早期治療に役に立ちます。

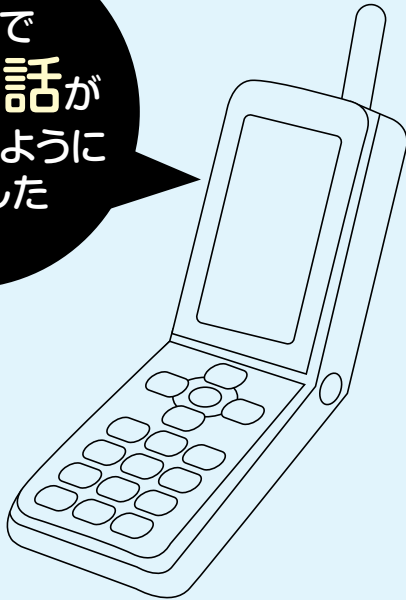
また、今回更新した大きな特長の一つとして、生検検査がデジタルで行なえることです。生検検査は病変部を直接穿刺して組織を採り、悪いものかどうか判断する検査のことです。今まではアナログ装置で施行していたため患者さんの負担がかなりありましたが、デジタル化することで、検査時間の短縮や患者さんの負担を軽減することができるようになりました。

岡崎市民病院は地域の基幹病院として、安心して乳房検査をしていただくために最新の医療機器で市民のみなさんに役立てていきたいと思っています。

岡崎市民病院 医療技術局 放射線室



病院内で
携帯電話が
一部使えるように
になりました



一度でも入院の経験のある方々は、院外の家族や知人と連絡を取り合ったり、入院生活の不安を紛らわせるために院内で携帯電話が使用できたならばと実感されたことがあるでしょう。しかし、少し前にはマスコミでは携帯電話のペースメーカーへの影響が大きく報道され、電車などの公共交通機関では、「携帯電話の使用はペースメーカーに影響を及ぼすのでお控え下さい」と繰り返し車内放送されてきました。従って、院内での携帯電話使用について不安をお持ちの方も多いようです。この件について当院では過去の専門学会での論議と当院医療技術局が行った実験などからその安全性について検討した上で、平成16年10月より院内外来部門の一部区域に限定して携帯電話の使用を可能と致しました。

平成9年の不要電波問題対策協議会の「携帯電話の使用に関する調査」では、植え込み型ペースメーカー全機種において最大干渉距離は15cmであることが判明し、22cmの距離を離せば安全と発表されました。その後、総務省よりこのガイドラインの正当性が再確認されています。一般に、一部の電磁調理器、盗難監視装置および金属探知機が、ペースメーカーに干渉するとされていますが、これらの機器に接近して影響を受けても、離れ

当病院内では
区域限定で
携帯・PHS電話
がご利用できます。

1階・2階の ■ の区域内でご利用できます。

1階

2階

※指定外では携帯電話・PHSを使用しないでください。
マナーを守ってご利用ください。

れば直ちにペースメーカーは通常のように作動します。

しかも、最近登場したペースメーカーの多くは電磁波防御フィルターが装着され、携帯電話と密着した状態でも正常に作動することが過去に報告され、当院で行った実験でも確認されています。当院循環器科で多くの患者さんに植え込んだペースメーカーも電磁波防御フィルター装着の機種で携帯電話と密着しても問題はないとされています。すなわち22cmという数値は一部の例外機種（多くは古い世代）のペースメーカーのために設置した値で、大半のペースメーカーは、使用中の携帯電話と接しても問題はありません。

一方、病気療養は、はるか昔より世塵を離れた静かな場所で行うのが理想とされてきました。入院生活には静謐が必要です。院内のいたるところで携帯電話が使用された場合、病に苦しみ、痛みに耐え、気分が悪くて横たわる患者さんにとっては自分以外の電話の声は騒音に過ぎません。そんな理由から当院は外来部門の一部に限定して、携帯電話使用区域と致しました。よろしくご了解ください。

交通案内

公共交通機関ご利用のとき



市民病院行または中央総合公園行の名鉄バスをご利用ください。

名鉄東岡崎駅発
美合駅発
大樹寺発

の3路線が運行されています。

タクシーで行く



正面玄関付近に乗降場があります。

車で行く



駐車場は第1から第5駐車場まで駐車台数613台を確保しております。
正面玄関に近い駐車場は第1・第2及び第5駐車場です。
第3・第4駐車場ご利用の方は北通路
(午前7時30分から午後8時30分まで開放)を利用すると、中央受付及び
病棟までスムーズに行くことができます。
なお、第5駐車場は午前7時30分から午後8時30分まで利用できます。

病院案内図



住 所 / 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1 (〒444-8553)
 代表電話・ファックス / TEL (0564) 21-8111 FAX (0564) 25-2913
 ホームページアドレス / <http://www.okazakihospital.jp/>
 メールアドレス / suggestion.box@okazakihospital.jp